

平成13年度第7回理事会議事録

日 時：平成14年3月10日（土曜日）
10:00～13:00

場 所：筑波大学 学校教育課（茗荷谷）

出席者：原田（昭）、杉山、和田、
五十嵐、石井、岩田、大平、
加藤、久保、車、佐渡山、
鈴木、中嶋、生田目、蓮見、
原田（泰）、日野、日原、
三橋、宮崎（紀）、両角、
青木、田中、山中

委任状出席：荒井、飯岡、石川、石村、
勝浦、川崎、佐藤、渋谷、
清水、須永、豊口、西川、
早坂、宮崎（清）、森田、
山内、渡辺、黒川、平

1. 会長挨拶

会長より挨拶がなされた。

＜審議事項＞

2. 平成13年度第6回理事会議事録の承認
田中本部副事務局長より前回の議事録
（案）が提示され、原案通り承認された。

3. 研究部会の活性化について

和田研究推進委員会委員長より、別紙資料に基づいて、研究部会アンケートの結果と問題点が説明され、平成13年度までの研究部会を白紙に戻し、平成14年度から研究部会を再登録し、春季大会から再登録した体制でスタートさせることとした。

なお、意見交換のなかで、研究部会の役割として、会員相互の交流に限らず、他機関から講演依頼があったときに、対応できるような、ダイナミックな組織作り、体制づくりが求められる（杉山）。安易に再登録しても現状と変わらないので、再編には時間をかけ検討する必要がある。平成14年度は再登録し、平成15年度に審査してはどうか（日原、大平）。新たに、時限部会を設けてはど

うか（大平）などの意見が出された。再登録のためのフォーマット等については、研究推進委員会に一任することとした。

4. 学生の大会参加資格について

両角企画委員会委員より、別紙資料に基づいて、学生の大会参加費がこれまで定められていなかったため、実行委員会で混乱を招いていたことが説明され、規定を設ける旨の案が提示され、原案通り、秋季大会参加費：学生（会員）6000円、学生（非会員）3000円を、一律4000円とすること。春季大会参加費：学生（会員）2000円、学生（非会員）1000円を、一律1000円とすること。また、春季大会参加費：一般2000円を2500円とすること。発表費（一律）3000円を一律4000円とすることが承認された。

5. 平成14年度春季大会について

両角企画委員会委員より、別紙資料に基づいて、春季大会の実施要領が説明され、審議の結果承認された。開催期日：5月18日、午前：総会、午後：春季大会、場所：女子美術大学相模原キャンパス。大会テーマ：「情報デザインの企業・学校（仮）」

6. 平成14年度秋季大会について

佐渡山秋季大会実行委員会委員長より、別紙資料に基づいて、秋季大会に向けた作業日程およびロゴマークが説明され、審議の結果、原案通り承認された。

7. 日本工学会評議員活動報告と提案

加藤日本工学会担当理事より、別紙資料に基づいて、日本工学会評議員活動報告がなされるとともに、デザイナーの生涯教育に関する委員会の設置が要求された。審議の結果、デザイナーの生涯教育の重要性が確認され、委員会を設置し、他団体との共同体制などについての検討を進めることとした。

8. 会員の移動について

本部事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会〔正会員11名（うち外国人会員3名）、年間購読会員3件〕、退会〔正会員17名、賛助会員2件、年間購読会員1件〕が承認された。

＜報告事項＞

9. 6th ADC開催準備状況について

原田会長、杉山副会長より、別紙資料に基づいて、6th ADCの開催準備状況が報告された。

10. 横断型研究推進事業について

原田会長より、別紙資料に基づいて、2月20日にシステム関連学会連合懇談会において、横断型研究開発の推進事業についての審議がなされ、科学技術振興事業団（JST）の事業として推進を要求することが決定した旨が報告された。

11. 2001年作品審査結果、および出版状況について

蓮見作品審査作品集出版委員会委員長より、作品集の審査結果、および出版準備状況が報告された。また、Webコンテンツデザインが増加したため、次年度以降の検討事項として、CD-ROM添付を申し送ることとしたことが報告された。

12. 特集号の進捗状況について

生田目出版委員会委員より、別紙資料に基づいて特集号の進捗状況、および次期への申し送り事項が報告された。

13. 2000・2001年度の総括

原田会長より、理事会終了後に開催される評議員会にて、2000年度、2001年度の総括を紹介する旨が報告された。

14. 平成13年度予算消化状況

青木本部事務局長より、別紙資料に基づいて、入金状況及び予算消化状況が報告された。

15. 日本学術会議合同シンポジウムについて

鈴木学術会議担当理事より、別紙資料に基づいて、「人間と工学の接点」合同シンポジウムの案内があった。また、原田会長より、共催学会に日本デザイン学会を含めてもらうよう要求していきたいとの意向が表明された。

18. 次回理事会について

事務局にて検討することとした。

記録：田中

平成13年度第1回評議員会議事録

日 時：平成14年3月10日（土曜日）
13:00～16:00
場 所：筑波大学学校教育部（茗荷谷）
出席者：岩田州夫、両角清隆、青木弘行、
安藤孚、五十嵐浩也、石井英機、
大平智弘、加藤久明、国澤好衛、
久保光徳、杉山和雄、田中みなみ、
谷内健、土屋雅人、寺内文雄、
中島猛夫、永田喬、生田目美紀、
蓮見孝、原田昭、原田泰、
日原もところ、古屋繁、細谷多聞、
松岡由幸、宮崎紀郎、山中敏正、
和田精二、佐渡山安彦、
常見美紀子、三橋俊雄、車政弘

1. 成立宣言

青木本部事務局長より、会場参加者32名、郵送による委任97名の合計128名で、会則に定める定足数(評議員数(193名)の1/4)に達したため、評議員会が成立した旨が宣言された。

2. 招集者挨拶

原田会長より挨拶がなされた。

3. 議長および副議長の選出

会則第24条第2項にもとづいて、議長および副議長が選出された。議長：原田会長、副議長、杉山副会長、和田副会長。

4. 議長挨拶

原田会長より、議長就任の挨拶がなされた。

5. 議事

1) 平成12年度、13年度事業報告
原田会長より、別紙資料に基づいて平成12年度、13年度の事業報告がなされ、会場からの質問に対して、質疑応答がなされた。

永田会員より、現在、学会誌掲載の英文の査読はどのように行っているのかとの質問がなされた。これに対して、原田会長より、現在は英文についての特

別な審査委員会が設けられているわけではないとの回答があり、次期への課題として検討したいとの意向が表明された。

日原会員より、関連する国際学会が多数開催されるようになったため、力が分散してしまう。色彩学会やインテリア学会など、他学会に呼びかけて、まとめて国際学会を開催してもらえないかとの意見が出された。これに対して、原田会長より、協賛を希望する学会をすべて受け入れることで、他学会には対処したいとの回答がなされた。

2) 第6回アジアデザイン国際会議について

原田会長より、別紙資料に基づいて、第6回アジアデザイン国際会議についての説明がなされた。

記録：田中

平成14・15年度日本デザイン学会 役員選挙結果報告

日本デザイン学会 選挙管理委員会

会 長：原田昭

副会長：杉山和雄

支 部 長：

第1地区：石川善美

第2地区：青木弘行

第3地区：酒井和平

第4地区：岡田明

第5地区：石村真一

地区理事：

第1地区：梨原宏

第2地区：須永剛司

第3地区：黒川威人(理事会選出副会長)

第4地区：佐渡山安彦

第5地区：釜堀文孝

監 査：

加藤久明

宮崎紀郎

全国理事：

山中敏正

両角清隆

大平智弘

宮崎清

渡辺誠

降旗英史

田中みなみ

堀田明裕

水野雅生

五十嵐浩也

尾登誠一

生田目美紀

源田悦夫

栄久庵祥二

勝浦哲夫

長谷高史

松岡由幸

古屋繁

渥美浩章

庄子晃子

全国理事として西川潔氏が選出されましたが、選挙後の委嘱受諾確認において辞退されたため、次点の庄子晃子氏に委嘱いたしました。

第5地区理事として糸井久明氏が、そして同地区理事次点として飯岡正麻氏が選出されましたが、同委嘱受諾確認において両氏が辞退されたため、次々点の釜堀文孝氏に委嘱いたしました。

平成14年度第1回理事会議事録

日 時：平成14年 4月20日（土曜日）
10:00～14:00

場 所：筑波大学学校教育部（茗荷谷）

出席者：原田、杉山、黒川、青木、
栄久庵、大平、岡田、尾登、
源田、佐渡山、須永、長谷、
生田目、梨原、降旗、松岡、
水野、両角、宮崎（紀）、
古屋、五十嵐、田中、
前年度監査：平、
選挙管理委員会委員長：久保
委任状出席：渥美、石川、石村、勝浦、
加藤、釜堀、源田、庄子、
堀田、山中、渡辺

1. 会長挨拶

会長より挨拶がなされた。

<審議事項>

2. 平成13年度第7回理事会議事録の承認
田中本部副事務局長より前回の議事録（案）が提示され、原案通り承認された。

3. 平成14年度学会活動計画について
原田会長より、資料に基づいて平成14年度学会活動計画として、1）多数の隣接領域と協調した社会貢献を実現するための新たな学術的枠組みを探る。2）産業界の動向を俯瞰的に見て、知と実践を融合したデザイン学の新たな枠組み。

の2点を柱として、10項目の具体的な活動計画が表明され、原案通り承認された。

4. 平成14年度学会役員組織について
原田会長より、資料に基づいて平成14年度学会役員組織案が提示された。併せて、久保、和田評議員を特設理事（論文審査・論文集編集委員、財務委員）に任命したいとの意向が表明され、審議の結果承認された。

5. 平成13年決算・監査報告

青木前本部事務局長より、資料に基づ

いて平成13年度決算報告が説明されるとともに、平、黒川前監査より、監査報告がなされた。会費未収に関する質疑応答と審議の結果、改善に向けての対策を本年度の財務委員会の検討事項とすることで承認された。

6. 平成14年度予算案

古屋本部事務局長より、資料に基づいて予算案が説明され、併せて両角理事より特集号印刷費用に対する追加説明がなされた。以下の質疑応答と審議の結果、承認された。

・[質疑] 昨今、印刷費は安くなる傾向にある。複数の印刷会社から見積もりを取り、印刷会社を検討してはどうか。

・[回答] 検討する必要があるが、印刷に付随して依頼している発送作業等も含めての検討が必要である。なお、現行印刷会社も経費削減を努力中なので、本年度は昨年度より予算を1割削減している。

・[質疑] 特集号の印刷費用がオーバーする場合はどうしたらよいか。
・[回答] 春季大会、特集号などの予算がオーバーする場合には、実行委員会や編集委員会の努力でカバーしてほしい。

・[質疑] 市販図書編集経費が5万円となっているが、刊行後は学会収入とならないのか。

・[回答] 市販図書編集委員会委員長に確認する。

7. 平成14年度総会式次第について

古屋本部事務局長より、資料に基づいて平成14年度総会式次第が説明され、原案通り承認された。

8. 名誉会員推挙について

原田会長より、資料に基づいて名誉会員が推挙され、審議の結果、宇賀洋子氏（40号）、小川一行氏（41号）、加藤久明氏（42号）、曽根靖史氏（43号）、望月積氏（44号）を名誉会員とすることが承認された。

9. 平成14年度学会各賞の選考方法について

原田会長より、資料に基づいて平成14年度学会各賞の選考方法が説明された。杉山副会長より、事務局担当を規定に明記し明確にすべきとの意見が出され、

審議の結果、委員長選出の後、規定の検討を依頼することとし、それまでの間は杉山副会長が世話人を担当して委員会の招集を行うこととした。

10. 平成14年度理事会開催日について

原田会長より、資料に基づいて平成14年度理事会開催日と開催会場が提案され、原案通り承認された。第1回：4/20、第2回：5/18、第3回：7/13、第4回：9/7、第5回：10/19、第6回：11/23、第7回：12/14、第8回：3/15（いずれも土曜日）

11. 日本学術会議「人間と工学の接点」合同シンポジウムについて

原田会長より、資料に基づいて日本学術会議より、「人間と工学の接点」合同シンポジウムを日本デザイン学会共催で開催したいとの申し入れがあった旨が説明され、審議の結果承認された。

12. 会員の移動について

本部事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会〔正会員16名（うち外国人会員2名）、年間購読会員1件〕、退会〔正会員12名、賛助会員1件、年間購読会員1件〕が承認された。

<報告事項>

13. 選挙結果報告

久保選挙管理委員会委員長より、資料に基づいて3月10日の評議員会で行われた選挙の結果が報告された。

14. 評議員会報告

田中本部副事務局長より、資料に基づいて、平成13年度第1回評議員会議事録が報告された。

15. 春季大会および第49回総会について
須永春季大会実行委員会委員長より、資料に基づいて春季大会の開催案内および準備状況が報告された。

16. その他

古屋本部事務局長より、各委員長に平成14年度活動方針を4月末日までに本部事務局に提出するよう要請があった。

17. 次回理事会について

5月18日（春季大会）昼休みに開催することが確認された。

平成14年度総会報告

本部事務局

平成14年5月18日(土曜日)、女子美術大学において平成14年度日本デザイン学会総会が開催されました。

出席者数は、会場出席者数36名、委任状出席者数185名の合計221名を持って総会が成立いたしました。

原田会長による挨拶に引きつづき、議事進行はカイデザインの田中会員と拓殖大学の工藤会員の二人の議長団の司会で平成13年度の事業報告、平成13年度の決算報告、監査報告が行われ、会場からの質疑応答を経て議決の結果承認されました。続いて平成14年度の事業計画ならびに平成14年度予算案について説明があり、会場からの質疑応答に引き続いて議決の結果承認されました。

以上の総会審議事項に引き続き、名誉会員証ならびに感謝状の贈呈式が挙行されました。

今回名誉会員となられた会員の方々は、小川一行会員、宇賀洋子会員、加藤久明会員、曽根靖史会員、望月積会員の5名でした。また、今回の春季大会、ならびに総会の開催に尽力をいただいた女子美術大学の小松弘光学長に学会から感謝状が送られました。

平成14年度春季大会の報告

春季大会実行委員長

日本デザイン学会・平成14年度春季大会シンポジウムは、5月18日土曜、女子美術大学を会場に開催された。『情報デザインからみる企業と学校をつなぐ場所：「使える知」の形とその共有を考える』をテーマに、デザインの企業実践と大学の先端的な教育研究プログラムの紹介を核に議論の場を組み立てた。国内から招いた講演者とともにフィンランド、ヘルシンキ芸術大学からカリ＝カンス・コモネン先生を来日講演者としてお招きした。また聴衆には、人工知能学会、認知科学会のメンバーも加わった、250名余りの参加者とともに次世代デザインの課題群を展望することができた。

その展望は、次の3つに集約できる。

- (1) [ability] 創造と造形というデザインの基本的能力の復権
 - (2) [awareness] 人間と社会を基盤とするデザイン学の構築
 - (3) [activity] デザインの学びを18~25才に閉じない、大人の学び合の場の必要
- 38頁の予稿集が参加者に配付されたシンポジウムは、下記の講演で構成され、それぞれに充実した議論がなされた。

■第1部. 企業実践の事例紹介

- ・1-1. 携帯電話のインタフェースデザイン開発プロセス＝井上勝雄(広島国際大学人間環境学部)・東田智輝(三菱電機(株)デザイン研究所)／デュアルスクリーンをもつ携帯電話のデザイン開発を紹介
- ・1-2. パーソナルロボット「PaPeRo」の開発における情報デザイン＝長田純一((株)NECデザイン)／ロボットの在り方、その形と振るまいを創造する、人文社会科学とデザインのコラボレーション
- ・1-3. メディアとしてのバーチャルリアリティ、そのデザインプロセス＝シスターナ礼拝堂からマヤ文明まで＝西岡貞一(凸版印刷株式会社総合研究所)・樋

澤明(凸版印刷株式会社GALA)／グラフィックスの未来を語る産学共同の教育システム開発

■第2部. 未来をさぐる学校の事例紹介

- ・2-1. Digital Design — Design for Society in Transformation 社会と生活する人々を基盤にしたデザイン(予稿集より内容を一部変更)＝Kari-Hans Kommonen(ヘルシンキ芸術大学 University of Art and Design Helsinki (UIAH)) 来日講演 UIAHのMedia研究所で展開している研究プログラム、分野複合の学び
- ・2-2. イタリアで始まった21世紀デザイン教育プログラム—Interaction Design Institute IVREA＝須永剛司(多摩美術大学美術学部情報デザイン学科) 世界をマーケットに「インタラクション」をフォーカスした教育プログラムの構築 IVREAのディレクターである Gillian Crampton Smith氏講演ビデオ
- ・2-3. 次世代デザインを語るコミュニティの構築—情報デザイン部会活動の報告＝植村朋弘(多摩美術大学造形表現学部デザイン学科) 情報デザイン研究部会の活動報告とおして、大人のデザイナー達が学び合える場の必要について

■第3部. 今後の展望

- ・参加者全員でのディスカッション 午後半日のシンポジウムの中に6つの議論を詰め込んだので、多少急ぎ足になった感はいない。しかし、グラフィックデザイン領域の研究活動を含め、提供された幅広い話題はデザインの今を俯瞰することに大いに役立ったと思う。また、聴衆の参加を意図した第3部の議論では、今一つのがしげなかった。聴衆が参加する議論の組立てには今後ともさまざまな試みが必要なことを痛感した。

最後に、この大会シンポジウムを成功は、小松弘光学長を中心とした大会委員と実行委員会メンバーのみならず女子美術大学の学生の方々のボランティアな力に支えられた。

(実行委員長、須永剛司、記)

催し物

日本学術会議

■「人間と工学の接点」合同シンポジウム■

日本学術会議第5部の17期人間と工学研究連絡委員会におきまして、4つの専門委員会合同シンポジウムを開催してはどうかという意見が出され、懸案事項となっておりました。そこでこのたびの合同シンポジウム開催に至ったものでございます。

21世紀を迎えた現在、人類が持つ最大の課題は、機械や情報などの工学分野が築き上げてきた工学的研究成果により、人間の精神活動(心)や生体を含んだ人間との接点における問題を解決し、これらを統合した科学を確立することです。例えばこれまで感性や心の問題は、一方では芸術学や心理学等の人文科学系の学問領域において、また一方では脳・神経科学など自然科学系の学問領域において、それぞれ独立に行われてきました。しかし最近では感性や心の解明には、これら両方の学問領域の連携による融合的・統合的・学際的研究が進められつつあります。今回企画する「人間と工学合同シンポジウム」は人文科学と自然科学の領域を融合し、感性工学、人間工学、安全工学ならびに医用生体工学の各専門委員会が合同して、それぞれの学術分野を越えて21世紀の人間と工学が直面する課題について、異種分野の研究者による問題提起と学術的展望について議論しようとするシンポジウムであります。

特別講演には、トロン開発で著名な坂村健氏にお引き受けいただきました。人間と工学の接点には何が求められるのかということについて耳を傾けたいと存じます。

◆日時：平成14年6月17日（月）

午後13時～午後17時30分

◆場所：日本学術会議講堂

◆主催：日本学術会議

第5部人間と工学研究連絡委員会

◆共催：日本感性工学会、日本デザイン学会、日本人間工学会、日本医用生体工学会、(社)日本イー・エム学会

◆参加費：無料

◆プログラム

13:00-13:10

開会の辞：山本明夫 日本学術会議人間と工学研究連絡委員会委員長

13:10-14:00

特別講演：「ユビキタスコンピューティン」 坂村健 東京大学大学院情報科学環境教授

14:00-14:00

人間のなぞり感性と芸術：井口征士 大阪大学大学院基礎工学研究教授

14:25-14:50

感性とひらめきの解明へ向けて：原田昭 筑波大学人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻長教授

14:50-15:15

細胞から組織、臓器を再生するテクノロジー：岡野光夫 東京女子医科大学先端生命医科学研究所所長教授

15:15-15:40

知能ロボットの医療応用：土肥健純 東京大学大学院情報理工学系研究科知能機械情報学教授

15:40-16:00 コーヒーブレイク

16:00-16:25

人間中心設計とユーザビリティ：黒須正明 文部科学省メディア教育開発センター教授

16:25-16:50

医薬品における安全性の概念－ヒューマンエラー防止の観点から－：土屋文人 東京医科歯科大学歯学部附属病院薬剤部長

16:50-17:15

航空機の安全とコミュニケーション：垣本由紀子 実践女子大生活科学部生活環境学教授

17:15-17:40

災害時の人間行動：広瀬弘忠 東京女子大学文理学部教授

17:40-17:50

閉会の辞 鈴木邁 千葉大学名誉教授

◆人間と工学合同シンポジウム実行委員会委員長 山本明夫（日本学術会議人間と工学研究連絡委員会委員長）

委員 清水義雄（信州大学）

原田 昭（筑波大学）

谷下一夫（慶応義塾大学）

堀 正二（大阪大学）

福田忠彦（慶応義塾大学）

大内啓子（(財)日本色彩研究所）

菅原進一（東京大学）

垣本由紀子（実践女子大学）

芸術を助けるのは誰か

文化芸術振興基本法をめぐって

今日の日本は不況に直面し、経済活動も沈滞している。芸術の世界も例外ではない。かなり以前から芸術の危機がいわれていたし、芸術の終焉も語られていた。確かに芸術活動も活発とはいいいがたい。これを再び活発にすることができるだろうか。できるとしても誰がどのような方法によって行うのだろうか。

そのような状況にあって、平成13年12月7日に「文化芸術振興基本法」が公布、施行された。この基本法はどのような経緯で成立し、どのような内容の法なのであろうか。そして実際にわが国の芸術振興の救い主となりうるのであろうか。芸術にかかわるさまざまな立場から、これを検証してみたい。

◆日時：2002年6月22日（土）13:30-17:00

◆会場：実践女子大学 香雪記念館（大坂上キャンパス）〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1

◆主催：日本学術会議

芸術学研究連絡委員会

◆参加費：入場無料（申込不要）

◆プログラム：

基調報告「文化芸術基本法の内容と意義」 利光巧（美学会／東京工芸大学教授）

パネルディスカッション 司会 利光功

パネリスト

海老沢敏（日本音楽学会／新国立劇場副理事長）

丹羽勝海（日本声楽発声学会／日本大学教授）

日野永一（日本デザイン学会／実践女子大学教授）

平田オリザ（日本演劇学会／桜美林大学教授）

若桑みどり（美術史学会／川村女子学園大学教授）

Internet & Mobile 2002 in summer

Digital Ware Osaka 2002 のプレ企画として、最先端のネットワーク技術、サービス等を展示紹介する場造りを通して 斯界の発展に寄与することを目的に開催いたします。

◆日時：2002年7月2日（火）-3日（水）
10：30-17：00

◆会場：大阪産業創業館（大阪市中央区）

◆お問い合わせ：Digital Ware Osaka 事務局
社団法人日本能率協会関西地域本部内
〒541-0052 大阪市中央区安土町 2-3-13
大阪国際ビル28階

TEL:06-6261-7151(代表) FAX:06-6261-5852
mailto:cgnet@jma.or.jp

◆詳細：http://www.jma.or.jp/dwo/

e-Learningは、

企業の学習をどう変えるか

最新の情報通信技術を利用して学ぶe-Learning技術が急速に進展しつつあり、初等中等教育、高等教育。企業内教育。社会教育における「学習の場」も、従来のものとは、大きく変わりつつあります。

本ワークショップは、その中でも、先進的なシステムの活用が始まっている企業におけるe-Learningを取り上げ、その今後の展開の方向を議論する予定となっております。

◆日時：2002年7月3日（水）10:00-16:30

◆会場：東京、西新宿、工学院大学

◆主催：電子情報通信学会「ネットワーク社会とライフスタイル」
時限研究専門委員会

◆URL：http://www.ieice.org/cs/ntsl/jpn/

◆お問い合わせ：時限研究会委員長 野須潔
（東海大学開発工学部TEL:055-966-1211-4411）

第18回ファジィシステム

シンポジウム

これまで、日本の大学では、文科系と理科系とが、はっきりと区別されていて、両者は、ほとんど実質的な対話を行って来ませんでした。方法論が違い、目的も相当に違う、この2つの系の間を埋める作業は、決して容易ではありません。しかし、近年、理系が文系に近い内容を扱うようになってとともに、両者の交流が不可欠となっ

て参りました。本シンポジウムでは、表記のような副題を掲げ、学会の存在意義を再確認する場としたいと思います。多数の皆様の御参加をいただけますよう、お願い申し上げます。

◆会期：2002年8月28日（水）-30日（金）

◆会場：名古屋工業大学

〒466-8555名古屋市昭和区御器所町

◆主催：日本ファジィ学会

◆プログラム：

基調講演 「文の知と理の知の二人三脚」
柳田博明氏（名古屋工業大学学長）

特別講演 「社会的合意形成と文理の二人三脚」 桑子敏雄氏（東京工業大学教授）
デモンストレーション・一般セッション
企画セッション・ピアセッション(8月28日(水))・懇親会（8月29日(木)）

◆参加費：事前参加申込締切2002年7月31日(水)
正会員(含協賛学会員)10,000円・非会員18,000円・学生会員4,000円・学生非会員8,000円・懇親会費7,000円

当日申込／正会員(含協賛学会員)12,000円・非会員20,000円・学生会員6,000円・学生非会員10,000円・懇親会費8,000円

◆問合せ先一覽：

大会委員長／小田哲久（愛知工業大学
経営情報学部マーケティング情報学
科）FAX: 0565-48-0077

E-mail: t-oda@mktaitech.ac.jp

実行委員長／矢野均（名古屋市立大学人
文社会学部現代社会学科）

FAX: 052-872-5182

E-mail: yano@hum.nagoya-cu.ac.jp

実行委員長（会場担当）／伊藤英則（名
古屋工業大学工学部知能情報学科）

FAX: 052-735-5469

E-mail: itoh@ics.nitech.ac.jp

企画委員長／磯本征雄（名古屋市立大学
システム自然科学研究科）

FAX: 052-872-5781

E-mail: yisomoto@nsc.nagoya-cu.ac.jp

組織委員長／古橋武（三重大学工学部情
報工学科）

FAX: 059-231-9456

E-mail: furuhashi@pa.info.mie-u.ac.jp

財務委員長／長谷川泰久（名古屋大学大

学院工学研究科マイクロシステム工学
専攻）

FAX: 052-789-3909

E-mail: hasegawa@mein.nagoya-u.ac.jp

プログラム委員長／橋山智訓（名古屋市
立大学 システム自然科学研究科）

FAX: 052-882-3075

E-mail: hashiyama@nsc.nagoya-cu.ac.jp

◆詳細：http://fss2002.nsc.nagoya-cu.ac.jp/

第5回 エコバランス国際会議

環境調和型社会に向けた実践と

評価基盤の再構成

物的な成長に特徴づけられた20世紀から環境の世紀と言われる21世紀に入り、われわれの生産や消費を、より環境負荷が少ないものにするための取り組みが様々な分野で進められています。「ゆりかごから墓場まで」の視点による環境への影響評価手法であるLCA(ライフサイクルアセスメント)は、国際規格化もほぼ終了し、企業内での製品評価・開発、タイプラベルに代表される情報開示等、ツールとしての実践的な利用の段階を迎えています。また、工業製品の枠を越え、農業、サービス産業、技術システム、インフラストラクチュア、ライフスタイルなど、より広い対象についての「ライフサイクル思考」による分析・評価が行われるようになってきました。さらに、環境パフォーマンス評価、環境効率、資源生産性、環境適合設計(DfE)、エコデザイン、環境会計、ライフサイクルコスト、環境の価値評価など、産業活動をはじめとする人間の営みを環境の視点から適切な方向に導くための新たなコンセプトの確立そしてツールの開発が積極的に行われています。

エコバランス国際会議は、LCAをはじめとする環境調和性の評価手法とその適用に関する研究や実践の成果に関する学際的・国際的な報告・交流の場として、欧米・アジア諸国からも多数の参加を得て、1994年以来2年ごとに、つくば市で開催されてきました。

第5回となる今回の会議では、インベントリ分析における感度解析やインパク

トアセスメントの統合化などLCAに関する新たな手法論について引き続き議論を深めるとともに、LCAの実践的な分野の広がり、企業内外での実際の活用、企業の調達や消費者の購入における選択の支援など、さまざまな利用主体・利用場面における実践的ツールとしてのLCAの利用に関する報告を期待しています。

さらに、上述したLCAと手法上・実践上の課題を共有する新しいコンセプトの提案そしてツール開発の発表を歓迎します。無論、国際的な協力・交流をさらに深めるべきことは言うまでもありません。環境との調和(エコバランス)を基調とする研究と実践の報告を通じて、本会議が21世紀の社会づくりにとってより実りあるものになるように期待しています。

◆会期：2002年11月6日(水)～11月8日(金)

◆会場：つくば国際会議場「エポカルつくば」〒305-0032 つくば市竹園 2-20-3

Tel 0298-61-0001 / Fax 0298-61-1209

<http://www.epochal.or.jp/>

◆主催：社団法人 未踏科学技術協会 エコマテリアル研究会・社団法人 農林水産技術情報協会・社団法人 産業環境管理協会 社団法人 環境情報科学センター

◆協力：産業エコロジー国際学会(ISIE) 後援(予定)：文部科学省・農林水産省・経済産業省・国土交通省・環境省

◆セッションとキーワード：

前述の開催趣旨を踏まえ、次のセッションとキーワードに該当する発表を広く募集します。

[S1] ライフサイクルアセスメント

- ・LCA手法(感度/不確実性分析、産業連関表の利用、統合化手法等)
- ・LCA事例研究/実践(工業製品、農業、建築、インフラストラクチャ、技術システム、サービス、ライフスタイル等)
- ・データベース、ソフトウェア

[S2] 製品/企業/産業/国の環境活動評価指標

- ・環境パフォーマンス評価
- ・環境効率
- ・資源生産性
- ・ファクターX
- ・サステナビリティの指標・指数

[S3] 製品開発/企業運営へのライフサイクル思考の活用

- ・エコデザイン
- ・環境適合設計(DfE)
- ・サプライチェーンマネジメント
- ・ライフサイクルコストリング
- ・ライフサイクルマネジメント
- ・包括的製品政策(Integrated Product Policy)

[S4] 製品/企業の環境情報開示とその利用

- ・エコラベル
- ・環境会計
- ・環境報告書
- ・エコファンド
- ・環境経営指標
- ・環境格付け
- ・グリーン購入
- ・環境コミュニケーション

[S5] 循環型システム・産業エコロジー

- ・循環型システムの社会経済分析
- ・マテリアルフロー分析
- ・連携による物質循環
- ・地域・都市の環境計画と資源マネジメント
- ・エネルギー需給システム
- ・廃棄物処理・リサイクルシステム
- ・エネルギー・物質併産システム

[S6] 環境調和型材料の評価と選択

- ・エコマテリアル&プロセッシング
- ・マテリアルセクション

◆会議の構成：・基調講演・招待講演・パネルディスカッション・一般研究発表(口頭発表およびポスター発表*)

*ポスター発表のための専用の時間帯を設けます。質疑において通訳が必要な方は、通訳補助を利用することが可能です。優秀なポスター発表には賞の贈呈を行います。

◆言語：英語を会議の公式言語とします。会議における口頭発表は英語で行います。プロシーディングは英語のみの発行ですが、日本語のアブストラクト集も会議で配布されます。

◆登録料：早期登録料** 普通登録料
会員* 30,000円 40,000円
非会員 40,000円 50,000円
学生 10,000円 20,000円

*主催団体の会員(団体会員を含む)およびLCA日本フォーラム・日本LCA研

究会・産業エコロジー国際学会の会員

**2002年8月31日までに振込み完了の場合懇親会費 10,000円

◆銀行振込先：第一勧業銀行 虎ノ門支店(普) 口座番号 1921361

口座名義 「エコバランス国際会議」

なお、登録料は次のカードによる支払いが可能です。

支払い可能カード：VISA, AMEX, MASTER

◆宿泊ホテルの斡旋：2002年11月5日(火)から11月8日(金)の宿泊につき、下記のホテルを特別料金にて斡旋いたします。ご希望の方は同封の申込用紙に必要事項をご記入の上、10月5日までにお申し込みください。

オークラフロンティアホテルつくば(旧 筑波第一ホテル)・(エポカルまたは本館)(朝食、税込み)

シングルルーム ¥10,500/ツインルーム

¥18,900/ツインシングルユース ¥14,700

キャンセル料：前日および当日午後6時までのキャンセルは、室料の50% 当日午後6時以降のキャンセルおよび連絡のない場合は室料と同額の支払いが必要となります。

所在地：〒305-0032 茨城県つくば市竹園2丁目20番1号(エポカル：つくば国際会議場隣接)・〒305-0031 茨城県つくば市吾妻1丁目(本館)

お申し込みは予約センターまで

Tel: 0298-61-1166 / Fax: 0298-52-5623

ホテルグランド東雲(朝食、税込み)

シングルルーム ¥8,400/ツインルーム ¥14,700

キャンセル料：前日のキャンセル 室料の20%・当日のキャンセル 室料の50% 連絡のない場合 100%

所在地：〒305-0034 茨城県つくば市小野崎涌井488-1

Tel: 0298-56-2212 / Fax: 0298-52-7422

お申し込みは国際会議事務局まで

Tel: 03-3503-4681 / Fax: 03-3597-0535

◆事務局：末次若子

TEL: 03-3503-4681 / FAX: 03-3597-0535

e-mail: mitoh@sntt.or.jp /

URL: <http://www.sntt.or.jp/ecobalance/>

会員の移動

◆平成13年第7回理事会承認 2002.03

*新入会:正会員12名(内外国会員2名)

安部 賢治 岩崎 充浩
 兒玉 由美子 笠井 則幸
 河野 とも江 西尾 巧
 長谷部 原 水野 潤
 山本 美穂子 渡部 紀綱
 趙 彦 朴 勝昊

年間購読会員 3件

関西大学生協同組合書籍店

国立情報科学研究所 コンテンツ課
 (株) 国書刊行会

*退会者:正会員17名(内外国会員2名)

淡路 美治 安藤 希人
 金子 直人 川浪 浩
 河野 石根 工藤 剛
 国枝 恵理子 篠原 速都
 高橋 和真 出口 栄子
 中川 一枝 増田 雅和
 無量井 三郎 松本 知子
 数内 朋子 崔 鍾錫

KOSTOV MARTIN PETROV

賛助会員 2件

(株) セキスイデザインセンター

シチズン時計 (株)

年間購読会員 1件

群馬職業能力開発短期大学校

◆平成14年第1回理事会承認 2002.04

*新入会:正会員16名(内外国会員2名)

浅野 正博 岩 葉子
 榎本 雄介 及川 紗織
 梶原 良成 金子 哲大
 久家 三夫 近藤 存志
 佐藤 延男 竹内 孝治
 千葉 茂 長岡 恵美
 鍋島 丈敏 村上 存
 鄭 又碩 高 台泳

年間購読会員 1件

公立はこだて未来大学情報ライブラリー

*退会者:正会員13名

川喜田 千晶 木幡 幸子
 坂田 昌克 下川 真人
 高嶋 涼子 野口 典正

細田 育宏

松本 章

米田 明生

藤井 聖

賛助会員 1件

リンテック (株)

年間購読会員 1件

文化学園文化購買事業部ブックコーナー

◆平成14年第2回理事会承認 2002.05

*新入会:正会員13名(内外国会員2名)

有賀 義樹 北村 武士
 清水 泰博 篠 直人JISのFAB1
 鉄矢 悦朗 長濱 雅彦
 西田 慶 藤井 健史
 宮崎 いづみ 横井 紘一
 吉田 栄一 張 青蘭

胡 文和

*退会者:正会員7名

明尾 誠 宇田 亘
 小川 容子 清水 行雄
 戸田 芳樹 中村 節子

山本 毅

賛助会員 1件

(株) オキアルファクリエイト

松原 礼宗

湯尾 正文

香西 重俊

献本御礼

機関誌

・感性評価5

筑波大学感性評価構造モデル構築特別
 プロジェクト研究報告書2001

・2001年度第8回全国高校デザイン選手
 権大会報告書